

大学院特別講義（医歯学先端研究特論）

タイトル：「脳にとって現実とは何か？-Substitutional Reality (SR) system-」

講師：理化学研究所 脳科学総合研究センター 適応知性研究チーム PI  
藤井 直敬 先生

日時：平成26年5月16日（金）

18時00分～20時00分

場所：1号館6階 歯学部演習室1、2

講演要旨；

これまでのVR, AR技術は、仮想環境を現実近づける事を目指していた。しかし、それらの環境で立ち上がるリアリティは現実のそれとは明らかに異なる。一方、我々のSubstitutional Reality (SR) systemは、現実から仮想へのスムーズな移行を実現することによって、現実感を保ったまま現実と仮想の間を自由に往復する事が出来る。

本講義では、脳にとって現実とは何かを議論し、SR技術が開く新しい世界の可能性を探る。





例年大好評で満員御礼の藤井先生の特別講義です。今年はさらにバージョンアップし“SR夜話@医科歯科大”と銘打ったエキサイティングなお話でした。

ヴァーチャルリアリティには限界、すなわちデジタル情報を現実には挟み込むことがうまく行かない、どうしても嘘がばれてしまうという欠点があります。その現実と仮想とのギャップを埋めて、視覚と聴覚でリアルな体験ができる装置が藤井先生の研究チームで開発されたSR (Substitutional Reality; 代替現実) システムです。

「SR 装置 (ヘッドマウントディスプレイとヘッドフォン)」を装着した人が、「現実」の映像を見ている時、過去に撮影しておいた別の「代替現実」の映像を時々差し替えることで、目の前にある「現実」と「虚構」を区別できなくするというものです。

視覚や聴覚には、どこにも「現実」という信号が入っていない。「現実」は脳の中にしかない、現実とは絶対的ではなく相対的・主観的なものである、という藤井先生の言葉がまさにリアルでした。

さらに「SR システム」を普及させるため、iPhone 上のパノラマ動画を利用した簡易 SR 装置 (写真上の小箱のようなもの) を開発され、皆で体験させて頂きました。藤井先生は「SR はタイムマシンになる」と仰っていましたが、過去のコンテンツの集積次第で十分可能な体験だと思いました。研究の発想から実用化の手法まで、そのすべてに斬新さと先駆性が溢れていました。

また来年も脳の本質に迫る、かつ夢にあふれたお話を伺えることを楽しみにしています。